

24年の救急出動件数は、海老名市が9602件（前年比484件増）座間市は7913件（同304件増）。搬送人員は3市とも前年を上回り、海老名市が8726人だった。事故種別の出動件数では、3市ともに「急病」が全体の6割以上を占めた。

救急出動件数の増加の要因について3市の消防本部は、猛暑日が続いた夏場の熱中症を理由にあげている。1日あたりの出動件数が海老名市は48件を記録した。

2024年救急出動・火災件数

	救急出動	火災件数
海老名市	9,602件 (+484)	18件 (-11)
座間市	7,913件 (+304)	22件 (-16)
綾瀬市	5,151件 (+10)	19件 (-2)

また、高齢化社会の進展も件数増加を押し上げる要因としてみられている。海老名市では、後期高齢者の搬送人員が前年比556人増となった。

各市の消防本部では今後も高齢化率が上昇されていることから、「救急車を呼ぶべきかの判断に迷ったら救急医療相談事業（#7199）を活用してほしい」と、救急車の適正利用を呼びかけている。（タウンニュース社より）

会員のひろば

秋田駒から岩手の山へ

菅 亨



北アルプスや南アルプスを山歩きするうちに、秋田の山に登ってないなと思うようになった。岩手の早池峰山の花、ヨーロッパのエーデルワイスによく似ていると言われるハヤチネウスユキソウも気になる。

ある年の、お盆に長期休暇を取って秋田駒ヶ岳から岩手山、早池峰山の山行を決行した。4泊5日、ひとりの山旅だった。

秋田駒の阿弥陀池から横岳に登り乳頭山へつづく稜線に出る。この稜線は秋田と岩手の県境だ。東側に岩手山が見えたはずだが、周囲の山の展望は覚えていない。

枯れ始めたニッコウキスゲが少し残っていた記憶がある。乳頭山から岩手側の滝ノ上温泉に下り、岩手山登山道に入る。ここから長丁場の山道だ。3日目には岩手山に登った。

翌日は早池峰山に向かう。花巻駅から岳集落までバス移動。深田久弥の「日本百名山」と田中澄江の「花の百名山」に載っているハヤチネウスユキソウ。花弁が白い綿毛に包まれた星形の花に会いに行く。



岳集落の宿を朝早く出発。山頂付近に綿毛が薄く、茶色になって枯れはじめた星形の花があった。これがハヤチネウスユキソウだ。

花の時期が少し遅かったがようやくこの花に会えた。登った山からの展望はほとんど覚えていないが、登山の疲れを癒してくれる花は脳裏に残っている。

「秋田の思い出」金丸 稔

私は山梨県で育ったのですが、その後神奈川県で暮らしています。昭和48年から約7年間、会社の転勤で秋田市八橋に住んだこともあり、知人から勧められ海老名秋田県人会に入会しました。秋田での暮らしは短い期間でしたが、沢山の思い出が家族の宝となりました。

はじめての秋田の冬は、稀に見る豪雪（50年ぶりとか）で大変でした。それも大家さんや近所の皆さんのお陰であつた援助と教えを頂いた雪が融け、梅や桜の花はもうそろそろソノの花や草木の花が一斉に咲き、楽しみにしていた春の訪れには感動しました。



ミズ



アイコ



うどん

同時に珍しい山菜（ミズ・アイコ・うど）など自然の恵みを味わいました。夏の夜は竿灯まつりに出かけ、米の国秋田の催し物を見物して、壮大で素晴らしい妙技に感動しました。秋には「きりたんぽ」で「なべっこ遠足」を家族で楽しみました。

盛り場の川反での飲食は楽しく、若かったせいもあって随分飲み歩き多額をつぎ込みました。その反動もあって現在は350mlの缶ビールを1缶嗜む程度に酒量が減り、カミさんから「病気じゃないの？」と疑われる始末です。ですが、県人会の総会などの行事には参加して楽しくビールを注いで回ったりしています。そんな時、さすが秋田出身の方はよく飲むわと感心します。

長女は神奈川県で生まれたのですが、次女は秋田で生まれた秋田っ子です。秋田を離れる時は辛く寂しさが募り、家族みんな涙ぐんだものです。これから県人会の皆さんと触れあひながら秋田での生活を思い起こしていきたいと思います。

今年は、なべっこ遠足できりたんぽを食べたいですね。これからはよろしくお願いします。

「編集後記」



秋田弁では「け」は食べろ、来い、かゆいの意味がある。この冬秋田は寒かったから、口をあまり大きく開かなくていいのでいっぱい使われたのではないかと思う。ひらがなが生まれたのは早く多く書けるからとの説もある。急ぐときに憂鬱（ゆううつ）、薔薇（ばら）などと書いてる時間が無いので。最近パソコンやスマホを使うので漢字の書き方も忘れてしまえそう。たまには友人に手紙など書いてみようか。（小野）